

八幡平地区における持続可能な公共交通サービスの構築について

- 燃料費など運行に係る経費が増大、運転手の不足
- 民間経営による交通サービスの維持が困難
- 持続可能な安心できる公共交通サービスの導入が必要
- みんなで利用し、みんなが参加できる「地域で育てる公共交通サービス」の構築を目指す

⇒ 八幡平地区の取り組みをモデルとして他地区へと広げる

八幡平地区路線バスの状況

系統名	起点	主な 経由地	終点	往復	系統キ ロ	夏期：運行回数		冬期：運行回数	
						平日	土日	平日	土日
八幡平 大環状	花輪駅 前	夏井・ 長内	花輪駅 前	往路	25.4	3	0	3	0
				復路	25.5	4	0	4	0
志張	花輪営 業所	谷内	志張温 泉	往路	22.1	3	0	4	0
				復路	21.8	3	0	4	0

系統名		往路①	往路②	往路③	往路④	復路①	復路②	復路③	復路④
八幡平 大環状	始発時刻	6:33	8:58	10:55	—	8:08	11:55	14:12	17:22
	利用者数	3.0	6.3	7.0	—	6.4	3.9	4.4	1.8
志張	始発時刻	7:30	12:10	14:15	17:45	7:20	9:00	13:10	15:10
	利用者数	12.0	4.9	1.4	1.6	3.6	5.0	0.8	5.5

平日における1便あたりの平均利用者数

大館市田代地域 バス路線廃止で導入



運行が始まったたしろたけのこ号

たしろたけのこ号 出発！

北部集落と2駅を巡回

大館市田代地域のバス路線 廃止されたことに伴って再編に伴い、10月から導入されたコミュニティバス「たしろたけのこ号」の出発式が2日、同市田代総合支所で行われ、この日から運行が始まった。

たしろたけのこ号は10人乗りのワゴン車で、市の委託を受けた秋北タクシー（同市）が運行。北部の集落とJR早口、下川沿の2駅を巡回し、2駅で市中心部に向かう幹線バスと接続する。集落と市中心部を直結する路線バス3路

円。路線バスを運行していた秋北バスの定期券も引き続き使用できる。

市によると、見直し対象の3路線は乗客数が減少し、国庫補助の要件を満たせなくなったことから、維持が難しくなっていた。

市は1年間の実証運行と位置付け、ニーズや課題を探る方針。（間杉大旗）

©秋田魁新報社

バス4路線廃止へ

能代市 タクシーなどで代替

能代市は、10月からコミュニティバスや乗り合いタクシー計3路線を新たに運行する。市内を運行する民間のバス4路線が9月末で廃止されるため、28日に市役所で開かれた市地域公共交通活性化協議会報告した。

廃止されるのは市中心部を回る市内線、松山地区に至る母体線、常盤地区に至る大橋刈橋の両線。いずれも秋北バスが運行している。

2020年度に計4万6892人だった4路線の輸送人員は前年度、3万4056人に減少。市は運行に年間約3100万円を補助している。今後も利用減が続くと予想されるほか、燃料の高騰もあって廃止を検討。この日の協議会で承認した。

市は市内線の代替路線として、東西連絡コミュニティバス「でほん」を平日に1日4便運行する。松山と常盤

の両地区には、いずれも予約制の乗り合いタクシーを平日に7便、土日祝日に4便運行する。いずれも運行は民間に委託する。

協議会ではこのほか、人工知能（AI）が効率的なルートを設定して走るオンデマンド方式のジャンボタクシーを、市中心部で今年11、12月に実験的に運行すると報告。二ツ井地域のコミュニティバスのうち、利用が少ない田代線の午後6時台の便を9月で廃止することも承認した。

©秋田魁新報社